

會 務

第 20 卷 第 6 號 昭和 9 年 6 月

役 員 會

第 5 回 役員會

開催日 昭和 9 年 5 月 21 日

出席者 會長 久保田 敬一君
 前會長 中川 吉造君 那波 光雄君 名井 九介君 眞田 秀吉君
 常議員 衣斐 清香君 池邊 稻生君 内海 清温君 河原 直文君
 鈴木 雅次君
 常議員兼主計 佐藤 利恭君 同兼主事 古川 淳三君
 同兼編輯長 田 中 豊君

協議事項

1. 連絡代表關係の學、協會と會誌交換その他に関する件
 - (イ) 連絡代表の氏名を關係各會へ通知し併せて會誌未交換の會に對し會誌の交換方を照會することゝす。
 - (ロ) 連絡代表關係以外の學、協會と會誌交換方希望する爲め從來會誌交換の有無を調査することゝす。
2. 常議員 1 名補缺選舉の件

前常議員那須章彌君死亡に依る補缺選舉は次回通常總會まで補缺せざることゝす。
3. 日本工學會用語統一調査會委員會本會選出委員依囑の件

前委員那須章彌君の補缺として山田博愛君を代表委員に依囑することゝす。
4. 維新以前日本土木史編纂委員依囑の件

前委員那須章彌君死亡に依り内務省第一技術課赤木正雄君を依囑することゝす。
5. 20 周年記念會館に関する委員依囑の件

前委員那須章彌君死亡に依り佐藤利恭君を依囑することゝす。
6. 職業紹介に関する件

求人求職依頼カードを會誌に綴込み申込みを受くることゝす。
7. 20 周年記念祝賀會準備委員會設置並に委員依囑の件。

即時委員會を設置し、委員に下記の諸君を依囑することゝす。

委員長	眞田 秀吉君
副委員長(總務主任)	井上 秀二君
同(祝賀主任)	茂庭 忠次郎君
同(見學主任)	小川 織三君
8. 地方委員に對し入會者増加表を添へ感謝の意を表すると共に今後一層の盡力方を依頼することゝす。
9. 入退會の件

五十嵐義男君外 48 名を會員に、安達功君外 168 名を准員に、清水宣一君外 23 名を學生員として入

會を承認し、朝倉廣太郎君外 166 名の准員を會員に轉格承認せり。
會員那須章彌君外 2 名、准員瀬戸川三男次君は死亡せり。

10. 春季視察旅行開催の件

既報の如く 6 月 9 日夜出發、同 11 日朝着京の日程にて鐵道省信濃川發電所工事並に新潟築港等を視察すべく既に手順も整ひたるを以てこれが報告をなせり。

11. 6 月開催講演會の件

6 月 26 日(火) 午後 5 時より丸ノ内鐵道協會に於て、工學博士山本忠興氏並に工學博士岸田日出刀氏を煩はして夫々専門の講演を聴くべく既に兩氏の承諾を得たり。

12. 故古市公威男記念事業に就き中川吉造君より日本工學會評議員會に於ける協議上の経過報告ありたり。

編 輯 委 員 會

第 5 回 編輯委員會

開催日 昭和 9 年 5 月 7 日

出席者 編輯長 田 中 豊君
委員 青 木 楠 男君 龜 田 素君 中原 壽一 郎君 永 田 年君
野 口 誠君 福 田 武 雄君 星 野 茂 樹君 堀 越 一 三君

協議事項

1. 第 20 卷第 4 號所載下記論說報告に對し討議依頼先を決定す。

東京高速鐵道實相の一端

會員 工學士 安 倍 邦 衛著

天龍川上流(諏訪湖を含む)改修工事概要

會員 工學士 岩 崎 雄 治著

2. 第 20 卷第 4 號所載論說報告、彙報、參考資料に對し夫々謝禮の階級及び金額を決定す。

3. 第 20 卷第 5 號に下記を追加す。(事後承認)

論 說 報 告

コンクリート標準同荷供試體の抗壓強度及び蒸發減と養生室より取出後の経過時間との關係

會員 吉 田 彌 七

4. 第 20 卷第 6 號登載論文を下記の通り決定す。

講 演

高速度活動寫眞に就て

工學博士 栖 原 豊 太 郎

日食觀測のため南洋に旅して

理學博士 早 乙 女 清 房

論 說 報 告

丹那榎道西口に應用した空氣掘鑿に就て

會員 工學士 石 川 九 五

吊橋の振動に就て

准員 工學士 最 上 武 雄

特殊架構論 (第 2 編)

准員 工學士 横 道 英 雄

討 議

鐵道線路下暗渠に及ぼす土壓及列車荷重

會員 工學士 並 川 熊 次 郎

上水道に於ける二重濾過の實驗的考察

會員 工學士 岩 崎 富 久

同 上

著者 會員 烏 崎 孝 彦

彙 報

- 宇出津港修築工事概要 (杉山宗次郎)
- 輪島港 " (")
- 唐津港 " (谷 堅)
- 国道 11 號線大田切改良工事概要 (高橋重治)
- 特許抄録
 - セメント建造物防水法 試錐機による地下状態探知法
 - 水圧利用地下水栓塞方法 ポートランド・セメント製造法
 - 舗装道路築造方法 地下建造物の擁壁構成方法
- 參考資料
 - 鐵筋コンクリート曲拱橋 (沼田政矩)

5. 第 20 卷第 7 號登載論文を下記の通り決定す。

論 說 報 告

- 係數曲線に據る調整池諸問題の解法 會員 工學士 松野辰治
- 小型潛函工事報告 會員 鈴木美英
- 不等速定流に關する二三の問題 准員 工學士 本間 仁
- 北滿に於ける架橋の一例 准員 眞鍋簡好

6. 抄譯に關する件

7. 土木工學論文集錄體裁に關する件

4 種の見本に就き種々協議の結果別に組方を變へたるものを作製し編輯委員會案として編纂委員會に提示すること。

8. 會誌編輯方法に關する件

會誌の編纂方法に關して種々協議の結果次の事項を決定す。

- (1) 表紙の「會務及會報」「論說報告」等の見出をゴシックとすること。
- (2) 討議は追込むこととし頁は前論文より追はずしてその號の討議欄の頁を附すること。
- (3) 特許抄録參考資料はこれを 2 欄とすること。

土木工學論文集錄編纂主查會及記念講演會委員會報告

第 1 回 主查會

開催日 昭和 9 年 5 月 14 日

- 出席者 委員長 中川吉造君 (土木工學論文集錄編纂委員會)
- " 那波光雄君 (記念講演委員會)
- 副會長 米元晋一君 草間 偉君
- 主查員 青木楠男君 榎木寛之君 佐藤利恭君 關 信雄君
- 竹股一郎君 田中 豐君 藤井眞透君 三浦七郎君
- 宮本武之輔君 山口 昇君

協議事項

1. 土木工學論文集錄各部門委員決定の件

各部門委員を下記の通り決定す

部門主查及び編纂委員氏名

- (1) 土 木 一 般 (主查 田中 豐君)

委員		鐵道と同様	
(2)	河	川	(主査宮本武之輔君)
	"	伊藤剛君	遠藤守一君 末森猛雄君
		富永正義君	
(3)	水	電	(" 萩原俊一君)
	"	伊藤楨次郎君	内村三郎君
(4)	上	下	(" 河口協介君)
	"	板倉誠君	龜田素君 玉置巖君
(5)	水	理	(" 山口昇君)
	"	伊藤剛君	本間仁君
(6)	港	灣	(" 鈴木雅次君)
	"	藏重長男君	黒田静夫君 原田忠次君
(7)	道	路	(" 佐藤利恭君)
	"	岩澤忠恭君	鈴木清一君 長久保俊夫君
(8)	都	市	(" 樫木寛之君)
	"	櫻井英記君	磯貝道一君 町田保君
(9)	材	料	(" 藤井眞透君)
	"	大石義郎君	立花次郎君 西川榮三君
		山本享君	
(10)	施	工	(" 青木楠男君)
	"	大野博君	高田昭君 福田武雄君
(11)	應	用	(" 山口昇君)
	"	杉本禮三君	野坂孝忠君 福田武雄君
(12)	橋	梁	(" 三浦七郎君)
	"	稻葉權兵衛君	小澤久太郎君 永田年君
(13)	鐵	道	(" 竹股一郎君)
	"	井上隆根君	川口利雄君 末森猛雄君
		沼田政矩君	橋口行彦君 星野茂樹君
		山崎匡輔君	
(14)	測	量	(" 關信雄君)
	"	稻葉通彦君	野口正義君 村野爲次君
(15)	堰	堤	(" 萩原俊一君)
	"	永田年君	松村孫治君
(16)	陸	道	(" 竹股一郎君)
	"	鐵道と同様	
(17)	雜		(" 田中豊君)
	"	鐵道と同様	

以 上

2. 集録編纂に関する件

(イ) 内容體裁の決定

見本により種々協議の結果編輯長一任とす。

(ロ) 論文の順序決定

部門別種別の内大體發表年代順とすること。

(ハ) Index を附けるか否か附するとせば其様式の決定
 簡單なる Index を巻頭に附すること。

(ニ) 校正の方法

各部門主査に於てなし總括を土木學會にてなすこと。

3. 記念講演會

1. 講演者及び演題の決定

次回迄に決定すること。

4. 次回は 6 月 1 日(金)開催の豫定とす。

20 周年記念會館に関する委員會

第 1 回 委員會

開催日 昭和 9 年 5 月 24 日

出席者 委員長 井上 秀 二君

委員 近 新 三 郎君

主 事 古 川 淳 三君

衣 斐 清 香君 森 井 健 介君 錢 高 作 太 郎君

書記長 柴 原 龍 兒君

協議事項

會館擴張に就き協議し次回(6 月 4 日)の會合迄に柴原書記長より調査報告することとす。

山口貯水池見學會

日 時 昭和 9 年 5 月 12 日

参加申込者 143 名

参加者 111 名

午後 12 時 30 分東京駅前集合同 1 時 9 臺の大型バスに便乗し青梅街道を直行し午後 2 時 30 分山口貯水池事務所へ到着、東京市水道局より茶菓の饗應を受け同貯水池建設に關し小野技師の説明あり、参加員を 2 班に分ち池内外を入念に見學午後 5 時 10 分歸途に着き東京駅前にて散會せり。

土木學會關西支部記事

昭和 9 年 5 月 26, 27 日に涉り關西支部春季見學會を下記の通り開催せり。

第 1 日

集合場所 大阪驛正面玄関

出 發 大阪驛午後零時 30 分

見 學 相生港、坂越、木村製藥所、赤穂城跡並に花岳寺

宿 泊 御崎對馬館宿泊懇親會

第 2 日

見 學 節磨港、途中壺綱、鯛網見學

解 散 午後 5 時 24 分大阪驛着解散

會 費 7 圓(汽車賃を含まず)

日本工學會記事

○昭和9年5月17日午後5時より日本工業俱樂部に於て日本工學會評議員會を開催し下記事項を決議せられ次で一般會務の報告ありたり。

1. 昭和8年度萬年會寄附工業獎勵金交附の件は土木、建築、工業化學の3學會より推薦の委員並に工學會指名の委員を以て組織せられたる日本工學會セメント試験に關する調査委員會に調査研究費として交附することとす
2. 第3回工學會大會を明年春季東京に於て開催することの可否に付き12學會の都合を照會し其回答を得て之を次回の評議員會に附議することとす
3. 故古市男爵記念事業として同男爵の銅像を建設すること等は最適當なるべくも尙各評議員に於て所屬學會の意嚮を確めたる上6月中に各學會長及各評議員參集の上記念事業計畫の發起準備會を開催することとす
4. 昭和9年度上期手當及三輪主事退職慰勞金の支給に關する件は理事長に一任することとす

その他の記事

○昭和9年5月1日信濃川發電所及び新潟港視察旅行開催に就き實地調査並に諸事務打合せの爲、柴原書記長小野寺庶務主任新潟縣下へ出張せり。

○昭和9年5月23日春季視察旅行開催のことを一般會員に通知せり。

○昭和9年5月24日土木學會誌第20巻第5號發行成規の手續きを了し5月25日これを全會員に配布せり。

○昭和9年5月21日までに於て下記諸君を入會又は轉格の手續きを了し名簿に登録せり。

入 會 員

五十嵐茂男君	井田清二君	石川勝治君	石原拓君
一ノ瀬吉次君	上田貞夫君	小川正信君	小野美造君
押火健七郎君	大谷保藏君	大森初太郎君	川上敏夫君
川越温君	川原田勸六君	川村末雄君	神戸浩君
黒江重君	黒崎十太郎君	小板橋義雄君	小出襲治郎君
小海淳三郎君	小島兼文君	後藤新君	佐々木泰三君
庄子吉光君	杉浦朝太郎君	鈴木義太郎君	高木進君
高田金十郎君	高田福次君	高田廣君	高橋敏五郎君
武田英吉君	寺井三郎君	中野幸太郎君	長峰孫治君
沼尻俊之助君	原田兵作君	平井寛君	福田基治君
藤澤正藏君	星野二郎君	松下寛君	宮澤一郎君
山本孝平君	山下六三郎君	山池男君	藤田健次君
房野得一君			

入 會 准 員

安達功君	青山勸君	赤澤常雄君	秋岡英夫君
新井義輔君	荒尾茂君	雨宮正道君	井上壽美雄君
伊藤徳助君	池田雄二君	磯崎傳作君	飯敏夫君
飯島昇君	飯島十郎君	飯島利喜男君	糸川一郎君

猪	岡	寛	一	岩	淵	軍	治	字	田	倉	三	字	都	宮	齋	夫
植	木	正	雄	上	野	廣	一	內	島	友	君	內	田	田	正	夫
鷄	富	士	雄	小	倉	賤	夫	大	川	長	廣	大	木	正	守	政
大	喜	多	謙	小	澤	貞	君	老	田	山	君	岡	村	守	隆	一
岡	本	剛	治	片	岡	武	君	勝	山	肝	君	金	谷	隆	明	君
金	山	保	君	神	淵	貞	吉	川	島	正	雄	川	名	隆	通	君
川	原	兵	一	川	川	正	君	菊	地	太	幹	岸	本	伸	吉	君
橘	内	德	治	黑	谷	一	君	桑	新	正	郎	元	泰	一	常	君
小	池	馨	君	小	藤	延	男	後	西	茂	於	香	村	林	郎	君
五	井	辰	造	後	々	主	殿	佐	々	政	吉	小	々	木	行	君
近	藤	眞	君	佐	藤	寛	三	佐	藤	健	吉	佐	々	木	行	君
佐	藤	定	男	齋	戸	良	太	齋	藤	淳	一	齋	藤	源	三	郎
酒	井	五	祿	穴	川	忠	君	鹽	釜	知	賀	齋	藤	忠	作	君
鳥	津	元	照	品	司	俊	次	白	石	幸	三	籙	澤	次	義	直
椎	野	一	耶	庄	山	定	男	鈴	木	新	吉	籙	田	木	誠	二
鈴	木	平	君	杉	口	紀	君	須	郷	伍	耶	瀨	木	藤	智	雄
宗	宮	正	君	田	千	完	君	田	所	辰	之	田	所	村	文	男
田	中	哉	君	田	野	東	君	田	中	七	耶	田	高	橋	正	雄
高	田	順	君	高	橋	正	夫	高	橋	榮	太	高	橋	正	武	君
高	龍	男	君	出	水	多	夫	寺	己	靖	男	德	野	武	君	正
土	猷	一	君	鳥	居	政	次	中	路	誠	三	中	林	兼	三	君
富	音	松	君	南	東	謙	君	南	保	久	弘	新	井	春	一	君
中	村	樹	君	西	川	榮	一	西	脇	三	男	西	山	正	火	州
新	美	一	君	野	原	新	吉	架	伊	三	君	馬	場	大	清	君
仁	料	君	君	長	谷	正	男	原	口	鐵	雄	深	田	長	俊	君
林	留	次	君	福	西	謙	一	藤	井	松	君	藤	下	信	孝	君
福	野	慶	君	藤	森	正	二	古	川	定	吉	古	田	宗	直	君
藤	官	藏	君	平	田	誠	君	平	野	幸	君	廣	瀨	多	夫	君
日	正	直	君	堀	江	簡	好	堀	江	幸	男	本	多	德	太	郎
堀	繁	君	君	真	鍋	正	邦	前	澤	武	君	前	澤	下	傳	君
本	田	策	君	松	井	義	君	松	尾	强	君	松	下	嘉	德	君
前	本	章	君	三	浦	成	美	水	上	一	夫	水	山	典	吾	君
松	武	男	君	村	岡	光	君	最	馬	武	雄	森	川	讓	二	君
南	清	治	君	本	野	正	次	門	田	元	治	吉	村	讓	二	君
本	一	耶	君	吉	田	若		吉	邊	逸	三	渡	部	時	也	君
吉	豐	君	治	若												
和	君	治	君													
庄	眞	治	君													

入 會 學 生 員

清	水	宣	一	秋	田	芳	一	淺	野	英	君	五	十	嵐	修	作
生	島	巖	君	市	浦	繁	君	石	井	興	君	稻	穂	義	信	君
内	田	襄	君	奥	田	教	朝	佐	藤	清	吉	佐	藤	林	左	衛

櫻木興一君
宮本芳英君
喜多見卓君

須藤正利君
村松正夫君
綱島恒夫君

寺西宗登君
山田俊介君
峰敏太郎君

松垣光君
若杉正雄君
渡邊浩君

轉 格 會 員

朝倉廣太耶君
青木淳吉君
相原益隆君
伊藤信君
五十川玉記君
石中廣次君
今泉佳三耶君
內田弘四君
小川讓二君
緒方猛君
大野金吾君
加藤喜一耶君
川上謙太郎君
加山稻輪君
北川幸三耶君
熊谷香吉君
小金松七耶君
笹川恭三耶君
清水政實君
白石不二生君
杉俊策君
關目季靜君
田畑淳一君
富脇勝男君
道井吾君
中川久次君
西山中忠一君
野中典悅君
林猛雄君
蓮尾誌藏君
平野省三君
古河順治君
眞鍋將太君
松岡又二君
松本唯夫君
八山卷芳丈夫君

安部源三耶君
天野毅彦君
荒木多馬君
伊藤弘君
池田三七君
一志三耶君
今井潔君
海老李美君
小野喜治君
大石勇君
大村四耶君
風間武雄君
金久保佐七君
海保享君
吉川至道君
黑田愛之助君
小宮益三君
佐々木一耶君
笹島直光君
柴田興市君
下川文市君
杉浦谷寬一君
高田善藏君
富谷誠君
德松幸登君
中永軍次君
根村正照君
長岸耕司君
谷川松枝君
林道太郎君
原田千壽親君
不破滿三君
堀淵勝彌君
增岡修一君
松岡島修藏君
三八尋清彦君
山崎桂一君

淺原重壽君
荒尾喜真太君
井越普君
伊藤正則君
池田一男君
一萬田七耶君
上竹主計君
小川悅助君
小畑吉左衛門君
大內勇君
岡崎三吉君
門澤利三君
神谷榮一耶君
木村弘君
金文斗君
菅辰耶君
後藤德次耶君
佐々木真志君
坂部素夫君
芝谷常吉君
白木左都夫君
杉村武次君
田中康朝君
高橋經德君
寺井美雄君
富家欣吾君
德重正雄君
中西幸男君
野坂相如君
林重一君
原企元君
比藤井宮武二君
本町田久壽男君
松井德三耶君
村野常一君
山下清吉君

有本恒太耶君
荒川惠助君
伊藤清一君
猪口理德君
石田啓次耶君
稻葉通彦君
梅本岩吉君
奧本圭一君
小見喜平君
大木延邑君
長田武治君
上山經亮君
河合信君
喜多村喬君
熊川信之君
小谷大五耶君
近藤主計君
境治義君
清水一耶君
白石啓美君
鈴木義孝君
田卷春造君
龍田直三君
東城源三君
友永染藏君
中津光藏君
信矢隆雄君
早田眞治君
原田英夫君
日比野忠次君
藤木武雄君
本間雅治君
松井達夫君
松本下人君
森西次耶君
藥師神榮七君
山田安三君

山田賢三君	吉田誠之君	吉原正明君	吉谷一次君
和田大五郎君	若槻章一君	渡邊禎一郎君	渡部廉君
青島勝三君	神澤桂一君	久保健次君	

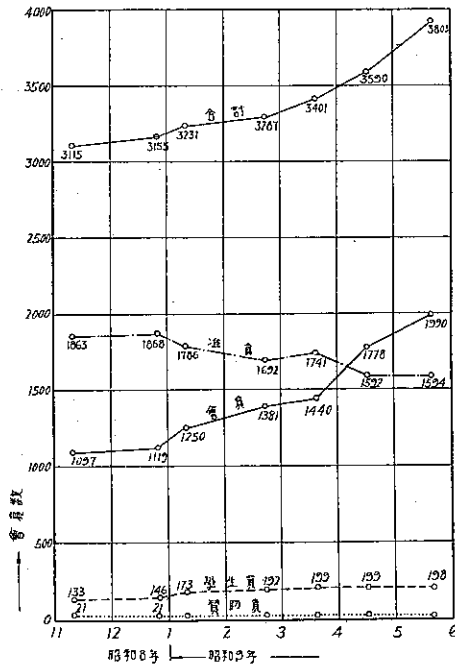
○昭和9年5月中に於ける寄贈又は交換を受けたる雑誌その他下記の如し。

世界動力會議大堰堤國際委員會議事録	日本動力協會
昭和8年に於ける特許實用新案, 意匠及商標の趨勢	特許局
工業研究輯覽	資源局
工業化學雜誌第37輯第5冊	工業化學會
建築と社會第17輯第5號	日本建築協會
港灣第12卷第5號	港灣協會
セメント工業5月號	セメント工業社
Excavating, April 1934	三菱機械部
土木建築雜誌第13卷第5號	シビル社
東京工業大學々報第3卷第4號	東京工業大學
工事畫報第10卷第5號	工事畫報社
都市問題第19卷第5號	東京市政調査會
日本工學輯報第10, 11卷	學術研究會
工業化學雜誌(歐文)第37編第5冊	工業化學會
工學 No. 237	東京工學社
實踐上水道第2卷	コロナ社
鑄物第6卷第5號	日本鑄物協會
都市美5月號	都市美協會
時局匡救河川砂防事業報告第1輯(昭和7年度)	愛知縣土木部
工學研究第4輯	京都帝國大學工學部中央實驗所
機械學會誌第37卷第205號	機械學會
鐵と鋼第12年第4號	日本鐵鋼協會
工業現勢第3卷第5號	東京工業大學
セメント界彙報第314號2冊	日本ポルトランドセメント同業會
工政第169號	工政會
微粉末測定共同試驗報告書第22號17	日本ポルトランドセメント業技術會
會務彙報第30號	日本土木建築請負業者聯合會
建築雜誌第48輯第585號	建築學會
動力第4月號	日本動力協會
電氣學會雜誌第54卷第5冊	電氣學會
造船協會々報第53號	造船協會
吳市阿賀港修築計畫案概要	港灣協會
Engineer No. 4	都市工學社
帝國學士院紀事第10卷第4號	帝國學士院
森林治水氣象彙報第14號	農林省林業試驗場
日本鑛業會誌第50卷第589號	日本鑛業會
工人5月號	日本工人俱樂部
沖電氣時報 No. 3	沖電氣株式會社
セメント工業6月號	セメント工業社

- 工業彙報第 9 卷第 1 號
- 研究抄録第 1 號
- 土木業協會報第 53 號
- 水道第 9 卷第 5 月號
- 業務研究資料第 22 卷第 8, 9, 10, 11 號
- 日立評論第 17 卷第 5 號
- 日本建築士第 14 卷第 4 號
- 造船協會雜誌第 145 號
- 會報第 35 卷第 5 號
- 東京土木建築組合報第 7 卷第 5 號
- 水道研究資料 No. 22, 23
- 國立公園第 6 卷第 6 號
- 衛生工業便覽
- 建築と社會第 17 輯第 6 號
- 土木局第 29 回統計年報

- 九州帝大工學部
- 服部報公會
- 土木業協會
- 橫濱市水道局長
- 鐵道大臣官房研究所
- 日立評論社
- 日本建築士會
- 造船協會
- 帝國鐵道協會
- 東京土木建築業組合
- 水道研究會
- 國立公園協會
- 衛生工業協會
- 日本建築協會
- 內務省土木局

會員移動一覽圖表



會 報

第 20 卷 第 6 號 昭和 9 年 6 月

第 2 回 見 學 會 記 事

本年 3 月舉行、好評を博した第 1 回見學會の後をうけ、第 2 回の見學會は既報の如く、風薫る好シーズン 5 月 12 日(土曜)を期し、専門的に観ても、日常生活の緊要さから考へても關心深き山口、村山兩貯水池の見學と決定し、参加者 111 名の多數に及び、第 1 回に劣らざる効果を收め得て盛會裡に終了を見たのであつた。次に當日の様子を略記して見よう。

この日、朝來ドンヨリと曇り、ラヂオの天気豫報も亦驟雨來を報じ、計畫者側をして頻りと氣をもませた天候も、正午近き頃より恢復しかけ、定刻(午後 1 時)に近づくに従ひ指定集合場所たる東京驛乗車口前廣場に會員の參集を見、午後 1 時一部自家用車を驅る會員を別とし、9 臺の市バスに分乘、案内役たる東京市水道局龜田技師同乗の第 1 號車を先導として出發した。各車毎學會職員 1 名宛同乗し、水道局より寄贈をうけた、山口貯水池に關する詳細記載のパンフレッド、同池を圖案とせる 麗しき栞、マッチ等を配布して、眼前に横はる貯水池への感興を呼び起し、尙前日漸く製作の成つた本學會の徽章(前號會誌卷頭に掲載の如き體裁のもの)を實費を以て頒布し、早速大部分會員の佩用を見て、1 時半新宿をバス、貯水池へ貯水池へと、一路舗裝成れる 青梅街道を直進したのであつた。

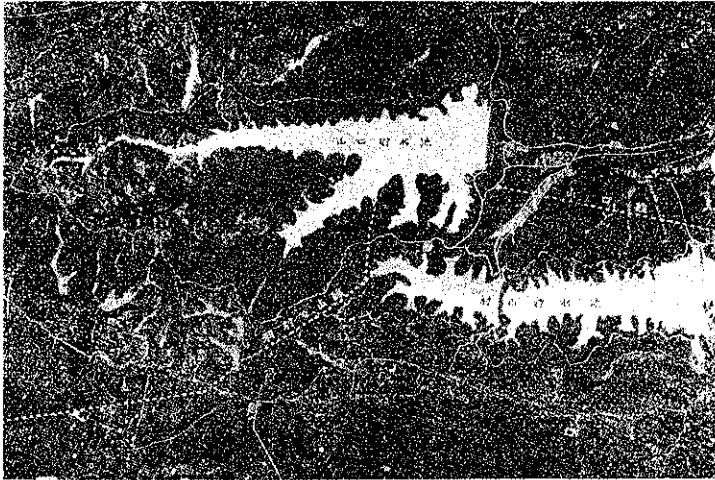
行く程に、進む程に、道は坦々として車は武藏野平原の只中を走る、天気晴朗ならざれ共騒音去り、都塵去り、眼界漸く展けて眼に入るは總てこれ新緑、木の間洩る涼風車窓に訪れて清爽、纏て車は緩かな坂路にかゝる、要所々々には、一行に對する市當局者の特別の心盡しと覺しき、貯水池への指標あり、或は所員諸氏の出迎へあり、車上に痛く忍縮を覺えつゝも愈々貯水池の近づける事の想はれて、微かに心の躍るのを覺えられた、間もなく限られた視界が更に展開して、ボックリと湖面が見えて來た。湖水を周つて、緑樹生ひ繁つた小高い山々が見える。おゝ貯水池、同乗の友は、あれが上の池、これが下の池等と教へて呉れた。パンフレットで豫備智識を得た堰堤が見える、取水塔が見える。滴々と滲えられたる水の淨さは明鏡の如き湖面を現出し、樹々の緑と相俟つて正しく山紫水明の仙境、何んたる美しさだ。さながら整ひたる一幅の山水畫を見るの想ひがする。スピードを落し左顧右眄、車上より貯水池(村山)の視察を進めつゝ、山口貯水池事務所正門に到着した。時に午後 2 時 35 分。

洗石は初夏、微かに汗ばんで 渴をさへ覺えた、ドライブによつて軽く疲れた體を特設の休憩所に運ぶ。庭前湖面のほとり、貯水池一帯を一望の中に收め得る 好位置に設けられたものだ。原水道局長より鄭重なる歡迎の御挨拶と、一行へのもてなしとして、時節向きの茶菓がすゝめられた。次いで小野擴張課長立たれ、圖表を示されながら、山口貯水池の沿革、計畫の大要等について語り出された。喉を濡ふしながら御聴取をといふ 同氏のお言葉に従つて、ビールを抜く者、サイダーを飲むもの、一同は遠慮なく頂戴し始める。グラスに注がれた一杯のビール、おゝその美味さよ。下戸黨に組する筆者は、思はずもコップの數を重ねながら、順々と語り出される 演者の言葉に耳を傾ける。ビールもうまい、小野課長の談話は更に妙を得てうまい。筆者は當日この見學記事を書くべき筈になつて居つた身だつたが、話のうまさ、談中引用される周囲の美しさに魅せられて、屢々職務のコピーをすら忘れて了ふ位だつた。従つて折角の名話も、そのまま會員諸君へお傳へすることの出来ない事に就て御諒恕を願ふ次第である。併し、本貯水池に就ては、已にして發表されたる委しき文獻もあり、これをこゝに記す事は、本記

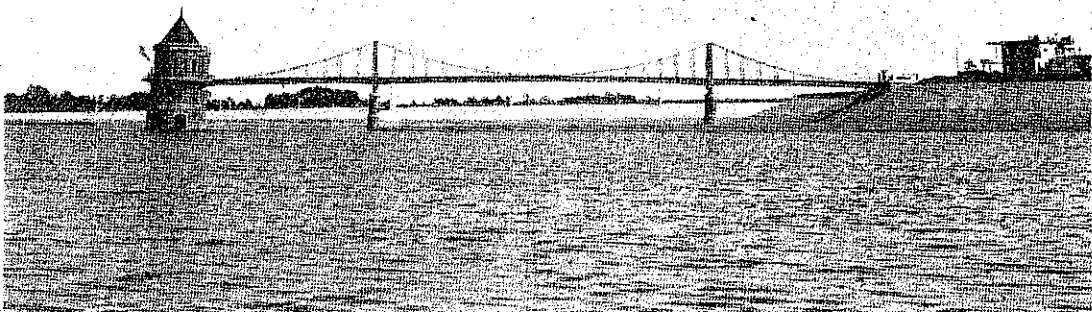
事のよくなし得ない事でもあるし、また近き將來に於て、當然本會誌上を節るべき性質のものと思はれ、詳細はこれ等の御活用を願ふ事にして、その外郭についてのみ述べる。

抑も東京市の水道は、多摩川を以て水源とし、府下羽村に於てこれが流量の大部分を取入れ、約半分は東京市の水道に、残餘は玉川上水に導かれ、300年來關東平野の灌溉その他の用水に使用されつゝあるものであるが、羽村に於ける流量は、設計樹立當初に比較し、年々減少の傾向あるため、渇水時に於ける水量調節の必要上、曩に有効貯水量 12 360 000 m³ の村山貯水池が設けられ、然もこれを以て供給水の機能を果し得ずとなし、種々比較研究の結果、既設村山貯水池の北隣の地を選び總工費 650 萬圓の巨費と、7 箇年の日子(昭和 3 年 3 月起工—9 年 3 月竣工)とを費し、有効貯水容量 17 000 000 m³、高さ約 33 m の堰堤を有する本山口貯水池の築造を見、羽村・村山線終點附近より引入水路を分岐して多摩川の流量豊富なる時、同線を経てこれに導入する。堰堤の南端に近く取水塔を設け、塔内に引き入れたる水は、引出隧道により山口線導水渠に導き、これ等は境、和田堀、淀橋等の各浄水場を経て一般市内に給水される。尙取水塔に接近して餘水吐を設け、貯水満水位以上の餘水を柳瀬川に放流するものである。

山口貯水池及村山貯水池鳥瞰圖



竣工したる山口貯水池の取水塔



名にしおふ、東洋一たるは勿論、一躍して世界的に著名となれる本工事、竣工を見るに到るまで、如何に当事者の苦心の秘められたる事か、竣工後の喜びや如何、今日これを語る小野課長の面上、一段の輝きあるが如く思はれた。次に土堰堤の話に移り、折柄壁間に掲げられた今は亡き先輩、沖野、近藤、山口、中島諸博士の寫眞を指さされ、土堰堤設計當初、適々來所せる同氏等の間に core を入れるべきか否かに就て論議が交はされ、一は必要とするもの、他は不必要とするもの、或は黙して語らざる者等あり、結局實施せられたる土堰堤には、コンクリートと粘土との core を入れ施工されたるも、その後種々透水試験の結果、及びアメリカに於ける著名なる土堰堤の透水試験等と比較せし結果、本土堰堤に使用せる盛土の性質は頗る優秀にして、core を入れざるも差支へなからんとの見解に到達したる事等語られた、尙今日斯くの如き平和な環境にあるも、今を去る 562 年の昔、即ち弘安 3 年 5 月の今日(12日)、この地一帯は、當時北條高時の專横を憎み、上野カタシナ神社に擧兵せる新田勢と干戈を交へたる古戰場にして、激戦數日遂に北條勢潰走せし事、彼方の山には北條勢、此方の山には新田勢が陣を布きし事等、指呼の間にある狭山丘陵を指さし、言葉巧みに語られ、聽者をして恍惚古戦記の中にあらしめて、談話を了られた。次いで參加會員を代表し、久保田會長立つて謝辭を述べ、これより一行 2 班に分れ、貯水池、狭山富士、養魚場、堰堤、取水塔等各施設の視察についた。

貯水池 一行は數隻の發動機船に分乘し、清風に迎へられながら池内を一周する。満水時貯水量 17 000 000 m³、満水面周囲約 5 里とき、更らにこれを目撃してその大量さと、池水の清浄さに今更一驚しながら、狭山富士に登る。

狭山富士 特にこの地に遊ぶ人々の、貯水池一帯の俯瞰に便せんがため、附屬設備として築造せる人造の山の由なれど、巧に施工されて天然高山の倂あり、これに登れば更に四周の景色も一瞬の裡に收め得られ、雲烟の間、秩父連峰を望み得られる好適の地、下山して養魚場に到る。

養魚場 堰堤の築造により、柳瀬川上流水源の一部が遮断され、ために下流水田の水利を失ふ事となり、これを救済する目的で堰堤下の排水路内に敷設したる排泥管を通して池水を放流し、灌溉用とすることになつたが、この池水は引出口構造の関係上池の底水となり、水温 13°C 以下の低温にて、直接水田の用水とするに不適當のため、一定の調制用貯水池を設け水温を高める必要を生じ、これに利用したのが養魚場であつて、低水温に適する鱒族(中禪寺湖の紅鱒)が養はれてあつた。餌を投げ與へる度毎、銀鱗をひらめかして群り寄る之等の魚族は大供子供を微笑ましめる。成育したものを貯水池に放てば、水中に棲息する多數の微生物(主として水棲昆蟲類)を飼料的に驅除し得て一舉兩得と爲る由。次に自動車上より堰堤の視察をすませ、附近の風致に一層の美觀を添へる取水塔連絡歩道(寫眞参照)を渡り取水塔を觀る。

堰堤 乾式工法による土堰堤であつて、本貯水池工事中最も苦心せられしものゝ由。その前面は 3 割勾配、背面は上半 2 割、下半 2.5 割勾配で、断面の中央に止水壁を設け、その上部は粘土下部はコンクリート工とし、止水壁下部は不透層なる粘土盤中に挿入せしめたるものである。その主要寸法は、長さ約 691 m、高さ根柢敷以上約 33 m、池底以上約 31 m、幅頂部 7.3 m、底部 185 m である。

取水塔 貯水池の水を引出水路に導き出すに適する様に築造されたものであつて、直立圓筒形の鐵筋コンクリート造とし、水位の昇降に應じ適宜の高さから引水し得る様 5 段の高さに夫々 2 個づゝの取水口を設け、各取水口には制水扉と針狀弁とを併用し、又取水塔の底部には直立圓筒形の水褥を設けて、激しい水衝が引出隧道に及ばぬ様に設計せられてある。

以上完備せる諸施設を親しく見學し、充たされた喜びを胸に藏しながら、一旦事務所に引き上げ、數々の好意を

感謝し、午後 5 時再びバスに乘車、往路を辿るもの、或は甲州街道によるもの等、暮色迫れる中を歸途についたのである。車中に想ふ。筆者固より斯界の幼稚園生、師の教へ、或は先輩の経験談等一として良き教訓ならざるはなけれども、今日の行に参加し、これ等完成せる偉大なる工事に直面する時、また無言の然もひしひしと魂を打つ絶大なる教訓を感じ、感慨無量となつたのである。永年に互る大工事に於ては、その間雨の日もあらう。風の日もあらう。いやそんななまやさしいものでなく、幾度か対策に苦慮腐心せねばならぬ難關に遭遇せしことでもあらう。然も日夜倦まざる努力と研究とに依つて始めて工事は完成される。つとめて大自然に接することの人間生活に緊要なると同様、技術者として、著名工事に接する事の緊要なことまた然りではあるまいか、有形無形得る所莫大なるひとり筆者のみにてはあるまい。尙この日筆者は、計らずも平常お互の繁忙に災され會合の機會を得ざりし數年來の友と落ち合ひ、久闊を語り、共に見學の目的を果し、その喜びを倍加したものである。これ等の企ての副産物として、これ亦ひとり筆者のみの経験に限られるものではあるまい、會員諸君よ、この種の企ては今後尙續々發表される筈、乞ふ、奮つて参加せられんことを。

會 告

日本工學會用語統一調查委員會經過報告

日本工學會用語統一調査委員會 コンクリート用語決定報告

豫て統一用語審議中のコンクリートの部は下記の通り決定した。

1. 日本工學會用語統一調査委員會は工業の各部門に共通なる用語を統一する目的で目下其の審議を進めて居るのであるが昨年應用力學關係の用語を決定したと同様の主旨で今度コンクリートに關する用語を決定した。
2. 用語選定方針は既に本委員會で決定した一般方針に依つたものであるが、特に斷つて置く方がよいと考へた數項を次に掲げる。
 - (1) コンクリートに關する用語の中で一般に必要と認めたものだけ拾集した。
 - (2) 漢字を用ひるものには凡て假名で読み方を示した。
 - (3) 各用語には之に該當する英語を添へて字義を明かにした、又特に必要と思はれるものには簡単な註釋を加へた。
 - (4) 漢字は成るべく文部省發表常用漢字表に依る事にしたが必要と認めたものは表以外のものも採用した。例 堰板、礎着。
 - (5) 文部省發表常用漢字表に略字あるものは之に依つたがそれ以外の略字を採用したものもある、圧(壓)の如し。
 - (6) 漢字には原則として送り假名を付けぬ事にしたが特に読み違へる虞あるものには之を付けた。
3. 本委員會は日本工學會社員たる 12 學會より指名した委員各 2 名、資源局技師 1 名及び日本工學會主事より成る。

學 會	委 員	學 會	委 員
日本鑛業會	渡邊浩一	工業化學會	桑田勉
同	佐野秀之助	衛生工業協會	木下功一
日本鐵鋼協會	田中清治	同	丹羽重光
同	鹽澤正一	電氣學會	肥田丈夫
土木學會	福田武雄	同	加藤録二
同	故那須章彌	電信電話學會	初見五郎
火兵學會	西松唯一	同	鈴木壽傳
同	千藤三千造	機械學會	今泉恒
造船協會	山本幸男	同	横山勝任
同	島谷敏郎	照明學會	本城巖
建築學會	笠原敏郎	同	尾本義一
同	長倉謙介	資源局技師	堀口益孝
工業化學會	永井雄三郎	日本工學會主事	三輪震一

4. コンクリートに關する用語の審義には特に關係深い人々を委員に囑託した。茲にその人々に深い感謝をさしあげる。
5. 此の選定用語は前に述べた趣旨と機關とによつて決定されたものであるから、是非我邦工業關係各方面に於て一般に之を採用して貰ふことを切望する次第である。
6. 工業用語統一の事業は啓明會から補助を受けてやつて居るのであつて同會に對し厚く謝意を表する。

昭和9年5月

日本工學會理事長 男爵 斯波 忠三郎

報 告

日本工學會理事長 男爵 斯波 忠三郎 殿

本委員會は曩に附託せられたる工業用語の内、特にコンクリートに關する用語につき慎重審議の結果別紙の通り選擇議定したり茲に取りあえず報告に及び候也

昭和9年5月26日

日本工學會用語統一調査委員會委員長 笠原 敏郎

附記 今回のコンクリートに關する用語選定には特にコンクリートに關係深き下記諸氏を臨時委員に囑託して其の參加を求めたり。

混凝土專修學校長	阿部美樹志	早稻田大學教授	内藤多仲
鐵道技師	川口利雄	東京帝國大學助教授	濱田稔
東京工業大學教授	田邊平學	内務技師	宮本武之輔

番 號	決 定 用 語	讀 方	英 語	備 考
1	モ ル タ ル		Mortar	セメント モルタル ノコト
2	セ メ ン ト 糊	セ メ ン ト ノ リ	Cement paste	
3	コ ン ク リ ー ト		Concrete	セメント コンクリ ートノコト
4	巨 石 コ ン ク リ ー ト	キ ョ セ キ コ ン ク リ ー ト	Cyclopean concrete	
5	粗 石 コ ン ク リ ー ト	ソ セ キ コ ン ク リ ー ト	Rubble concrete	
6	炭 殻 コ ン ク リ ー ト	タ ン ガ ラ コ ン ク リ ー ト	Cinder concrete	
7	軽 量 コ ン ク リ ー ト	ケ イ リ ョ ウ コ ン ク リ ー ト	Light weight concrete	
8	水 密 コ ン ク リ ー ト	ス イ ミ ツ コ ン ク リ ー ト	Water-tight concrete	
9	無 筋 コ ン ク リ ー ト	ム キ ン コ ン ク リ ー ト	Plain concrete	
10	鉄 筋 コ ン ク リ ー ト	テ ッ キ ン コ ン ク リ ー ト	Reinforced concrete	
11	鉄 骨 コ ン ク リ ー ト	テ ッ コ ツ コ ン ク リ ー ト		
12	鉄 骨 鉄 筋 コ ン ク リ ー ト 構 造	テ ッ コ ツ テ ッ キ ン コ ン ク リ ー ト コ ウ ゾ ウ		鉄骨ト鉄筋コンクリ ートトヨリ成ル構造
13	レ イ タ ン ス		Laitance	
14	凝 結	ギ ョ ウ ケ ツ	Setting	
15	硬 化	コ ウ カ	Hardening	
16	材 齢	ザ イ レ イ	Age	
17	風 化	フ ウ カ	Weathering	
18	セ メ ン ト		Cement	
19	ア ル ミ ナ セ メ ン ト		Alumina cement	
20	高 炉 セ メ ン ト	コ ウ ロ セ メ ン ト	Slag cement	
21	ポ ル ト ラ ン ド セ メ ン ト		Portland cement	
22	水 硬 性 セ メ ン ト	ス イ コ ウ セ イ セ メ ン ト	Hydraulic cement	
23	急 結 セ メ ン ト	キ ュ ウ ケ ツ セ メ ン ト	Quick setting cement	
24	早 強 セ メ ン ト	ソ ウ キ ョ ウ セ メ ン ト	High early strength cement, Quick hardening cement	
25	天 然 セ メ ン ト	テ ン ネ ン セ メ ン ト	Natural cement	
26	骨 材	コ ツ ザ イ	Aggregate	
27	粗 骨 材	ソ コ ツ ザ イ	Coarse aggregate	
28	細 骨 材	サ イ コ ツ ザ イ	Fine aggregate	
29	粒 度	リ ュ ウ ド	Grading	
30	粗 粒 率	ソ リ ュ ウ リ ツ	Fineness modulus	
31	表 面 積 率	ヒ ョ ウ メ ン セ キ リ ツ	Surface modulus	
32	空 隙	ク ウ ゲ キ	Void	
33	空 隙 率	ク ウ ゲ キ リ ツ	Percentage of voids, Void ratio	

番 號	決 定 用 語	讀 方	英 語	備 考
34	イナundation		Inundation	
35	水セメント比	ミズセメントヒ	Water cement ratio	
36	軟	サヤワラカサ	Consistency	
37	硬	練カダネリ	Dry consistency	
38	中	練チユウネリ	Mushy consistency, Medium consistency	
39	軟	練ヤワネリ	Wet consistency	
40	施 工 軟 度	セコウナンド	Workability	
41	フ ロ ー		Flow	コンクリートノ
42	ス ラ ン プ		Slump	
43	洗 試 験	アライシケン	Decantation test	
44	落 下 試 験	ラツカシケン	Drop test	
45	フ ロ ー 試 験	フローシケン	Flow test	
46	ス ラ ン プ 試 験	スランプシケン	Slump test	
47	篩 分 析	フルイブンセキ	Sieve analysis	
48	空	練カラネリ	Dry mixing	
49	手	練テネリ	Hand mixing	
50	機 械	練キカイネリ	Machine mixing	
51	練 返	シネリカヘシ	Retempering	
52	ミ キ サ		Mixer	
53	バ ツ チ ミ キ サ		Batch mixer	
54	セ メ ン ト ガ ン		Cement gun	
55	コ ン ク リ ー ト 打	コンクリートウチ	Depositing of concrete, Concrete placing	
56	打	止ウチドメ		
57	打	継ウチツギ		
58	樋 卸	シトイオロシ	Chuting	
59	突	固ツキカタメ	Compacting, Tamping	
60	養	生ヨウジョウ	Curing	
61	型	枠カタワク	Form	
62	隔	子ヘダテコ	Spacer	
63	堰	板セキイタ	Shuttering board	
64	鉄	筋テツキン	Reinforcement, Reinforcing bar	
65	組 立 用 鉄 筋 ※	クミダテヨウテツキン		

番號	決定用語	讀 方	英 語	備 考
66	異形鉄筋※	イケイテッキン	Deformed bar	
67	主鉄筋※	シュテッキン	Main reinforcement	
68	配力鉄筋※	ハイリヨクテッキン	Distributing bar	
69	用心鉄筋※	ヨウジンテッキン		
70	正鉄筋※	セイテッキン	Positive reinforcement	
71	負鉄筋※	フテッキン	Negative reinforcement	
72	単鉄筋※	ダンテッキン	Single reinforcement	
73	複鉄筋※	フクテッキン	Double reinforcement	
74	圧縮鉄筋※	アッシュクテッキン	Compressive reinforcement	
75	引張鉄筋※	ヒツバリテッキン	Tensile reinforcement	
76	軸方向鉄筋※	ジクホウコウテッキン	Axial reinforcement	方向ハ略スルコトヲ得
77	肋鉄筋※	アバラテッキン	Stirrup	
78	帯鉄筋※	オビテッキン	Lateral tie, Hoop	
79	折曲鉄筋※	オリマゲテッキン	Bent-up bar	
80	斜鉄筋※	ナナメテッキン	Diagonal bar	
81	螺旋鉄筋※	ラセンテッキン	Spiral reinforcement	
82	配筋	ハイキン	Arrangement of reinforcement	
83	鉄筋比	テッキンヒ	Steel ratio	
84	釣合鉄筋比	ツリアイテッキンヒ	Balanced steel ratio	
85	帯鉄筋柱※	オビテッキンチュウ	Column with lateral ties	
86	螺旋鉄筋柱※	ラセンテッキンチュウ	Column with spirals	
87	柱頭	チュウトウ	Column capital	
88	壁付柱	カベツキバシラ	Attached column	
89	矩形梁	クケイバリ	Rectangular beam	
90	丁形梁	テイガダバリ	T-beam	
91	版	バン	Slab	
92	無梁版	ムリョウバン	Flat slab	
93	床版	シヨウバン	Floor slab	
94	基礎版	キソバン	Footing slab	
95	柱頭版	チュウトウバン	Dropped panel	
96	柱列帯	チュウレツタイ	Column strip	
97	柱間帯	チュウカンタイ	Middle strip	
98	有壁ラーメン	ユウヘキラメン	Rahmen with wall	

番號	決 定 用 語	讀 方	英 語	備 考
99	ハ ン チ		Haunch	
100	隅 面	ス ミ メ ン	Bevel	入隅ノ面
101	角 面	カ ド メ ン	Bevel	出隅ノ面
102	面 取	メ ン ト リ	Beveling	
103	有 效 断 面 積	ユウコウダンメンセキ	Effective sectional area	
104	中 立 軸 比	チュウリツジクヒ	The ratio of the depth of the neutral axis from the extreme fibers in compression, to the effective depth of the beam.	
105	打 継 目	ウ チ ツ ギ メ	Construction joint	
106	碁 着	テ イ チ ヤ ク	Anchorage	
107	附 着	フ チ ヤ ク	Bond	
108	被 リ	カ ブ リ	Protective covering, Insulation	
109	鈎	カ ギ	Hook	

※ 印ハ鉄筋ノ鉄ヲ省クコトヲ得